



エロエロ
フェロフェロ
★

妹バンドは
お兄ちゃん
限定!

玉城琴也
イラスト／牧だいきち

 ぶちばら文庫
creative

- 1.Stop! 普通の兄妹はこんなことしないッ! …… 7
- 2.Immoral! 妹で童貞喪失ってあり? なし? …… 29
- 3.Secret! 兄と妹と妹のヒミツのヒミツ。 …… 80
- 4.Temptation! 据え膳喰わぬは兄の恥。 …… 130
- 5.Ecstasy! 二人より三人がいって元就さんも言ってた。 … 166
- 6.Restricted! あたしたちはお兄ちゃん限定! … 199

1.
Stop!
普通の兄妹は
こんなことしないッ!

俺には二人の妹がいる。

一人は、諏訪部柚葉。年の頃は、十七歳。

ミニのプリーツスカートと制服姿の似合う、私立の女子校に通う高校二年生だ。

そして、そんな彼女の兄である俺——諏訪部雄一は今。

「どう、おにい。ギンギンに勃起しちゃってるおちんちん、足で踏まれたら痛いでしょう?」

男の最も大事な部分を、その妹の22センチの足で足蹴にされていた。

俺の上半身はTシャツ一枚。しかし、下半身は真っ裸。そんな格好で、妹の足にしごか

れているというステキな光景。

こんな誰かに見られたら速やかに舌を噛んで死にたくなるような状況は、俺の性癖じゃ

ないし、ライフスタイルでもないし、新しい健康法でもない。

「痛い! 痛いから、もうやめてくれ!」

これは、彼女から俺へのオシオキだった。



諏訪部 百合菜
(すわべゆりな)

いつもおっとりした、黒髪ロングの理想的な妹。双子の姉である柚葉とのヒミツを、雄一に教えてくれる。兄思いの大人しい少女だと思っていたが、実は雄一が驚くほど積極的。

諏訪部 柚葉
(すわべゆずば)

兄の雄一を何かときき使う、生意気な妹。百合菜とは双子だが、性格は正反対だった。雄一の弱みにつけ込もうとするが、百合菜の計画で、実はお兄ちゃんだったことが判明。

起きたら、えっちな汁でパンツぐつしよりになってたしさ。もちろん、すぐに履き替えただけど、あんなにびしょびしょだったら、絶対、あたしのアソコ透けちゃってたわよ……。変態のお兄ちゃんだったら、あのぐちよぐちよのパンツ、喜んだのかな……。まさかね。いくら変態のお兄ちゃんだって、アレは引くわ。恥ずかしくって、あんなパンツ見せられるわけないし。

はあ……。今日の夢って、あたしの願望だったのかな。

あたし、お兄ちゃんをあんな風に無茶苦茶に犯してやりたいって、思ってたのかな、だとするとちよつと自己嫌悪なんだけだ。

お兄ちゃんはそりゃへタレだし、すぐに流されるし、イジメ甲斐があるけどさ。

別にあんな風に無理やりしたいわけじゃないのよ。好きな人とするエッチって、あんなのじゃないもん。

もつと向かい合って、キスとかして……。いろんなところを触り合ったり、いちゃいちゃしてさ。

それで、お互いのエッチなところを触って、気持よくし合ってた……。。

目と目で確認して、見つめ合って……。恥ずかしいけど……。そうやって初めて、おちんちんを、おま、おまんこに入れて――

「お兄ちゃん……。ユズのおまんこ、こんなにぐちゅぐちゅなんだよお……」

思わず声が出ちゃったけど……。誰にも聞こえてないよね。お母さんと百合菜は買い物行ってるし、お兄ちゃんもまだ帰ってきてないし……。別にいいよね。

あの時、お兄ちゃんを撮ったケータイを片手に、あたしは右手で、自分のおまんこの入口を人差し指でかき回す。

あたしのお汁が指に絡んで、入口のお肉でくちゅくちゅ鳴って、その音がすごくいやらしい。

隣の部屋の百合菜がいたら……。ううん、それどころかニブチンのお兄ちゃんにだつて聞かれちゃうくらい大きな音。

でも、こんなに気持ちいいんだもん。

はあ……。ん、お兄ちゃんの写メ見ながらするオナニー、気持ちいい……。

自分の体から出た愛液でぬるぬるになっている指先を、あたしはブラウスもブラジャーもずれて、ほとんど裸同然になっちゃっている自分の胸に押し当ててる。

「んっ……！」

乳首に自分の指が触れただけで、身体が勝手にびくんって跳ねた。

ヤッパあ……。おっぱいもすつごく敏感になつてる……。

おっぱいだけじゃない、あの時のお兄ちゃんのおちんちんみたいに、おまんこのちよつと上のクリトリスもぷつくり膨れてる。クリトリスって、男の人でいうところのおちんち

んの部分なんだっけ？

あたしの割れ目の奥から溢れるお汁を指に塗りつけて、固くなったクリトリスを指先で転がすように弄る。

「んっ……あ、やつ……クリ、ちゃん、気持ち、いい……ッ！」

小さいお豆を中心にして、あたしの体全体に快感の電流が走る。

ほら、お兄ちゃん、本当のユズはこんなにエッチなんだよ。絶対、お兄ちゃんには見せてあげないけどね。

もちろん、今開いているあたしのケータイ画面に映っているのは、お兄ちゃんの姿。

百合菜のパンツを握りしめてるお兄ちゃんの情けない姿。

ぶぶっ、本当に情けないの。

情けないわよ。なんで百合菜のパンツでそんなことするのよ。あたしが脱いだパンツじや、絶対にそんなことしてくれないのに。

今まで、何回かお兄ちゃんの前にお風呂入った時、わざと目に付く場所へ置いたのに、全然引つかかってくれなかった。

あたしの縞々パンツはダメなのかな。魅力ないのかな……あたし、かわいくないのかな……。

そりゃ、あたしよりも百合菜の方が最近色っぽいかもしれないけど。百合菜みたいにお



つばいおつきくないし、愛想ないし、お兄ちゃんのこと、いじめてばかりで、顔合わせたら憎まれ口ばかりだし……確かに可愛くないかもしれないけど。

だって、好きだなんて言えないよ。

妹がお兄ちゃんを好きになるっておかしいことだもん。

キンシンソーカンって、ダメだもん。

だから、ついつい、これ以上、お兄ちゃんを好きにならないように、虐めるような言葉が出ちゃう。

んー……お兄ちゃんを虐めた時の顔が、すつごく可愛いつていうのもあるんだけど。

好きな子ほど、苛めたくなるってヤツなのかな……。

でもね。

だいたい、お兄ちゃんが悪いんだから。

あたしに全然目もくれないで、百合菜のことばっかでき。

あたしだって、百合菜に負けなくらい、ううん、百合菜よりもずっとずつともつともつと、お兄ちゃんのこと、大好きなのに——

つぶつつぶつ、と、おしつこの穴のちよつと下の、一番エッチな穴に人差し指の第一関節だけ入れて遊ぶ。

……お兄ちゃんとエッチしたら、気持ちいいのかな……最初はすごく痛いって、ハナ

ちゃんも言ってたけど……。

お兄ちゃんのおちんちん、さすがにハナちゃんの彼氏（なんて言ったっけ？）よりはおつきくないみたいだけど、アレでも充分だよ。あたしの人差し指なんかより、ずつと太い。

人差し指くらいで怖がつてちゃダメ、だよ、お兄ちゃんのおちんちん入れられるようにするなら、指二本くらい、簡単に入れられないと……。

あたしは弄んでいた指に、もう一本加えて。

人差し指だけじゃなくて、中指も入れようとしてみる。

「……ん、痛っ……！」

う……やっぱ、無理……あたしのおまんこ、そんな広がりないよ……まだ処女だもん。大事に取っておいてるんだもん。

お兄ちゃんのおちんちん、あたしのおまんこの中に入れられるのかな……。入れられたら……気持ちいいのかな……それとも、ハナちゃんが言ってたみたいに、泣いちゃうかな……。？ 夢で見たみたいに、お兄ちゃんの精液、おまんこの中に全部出されて、イッチやうのかなあ……？

どうなるかわからないし、そんな機会はきつとずつと来ないんだろうけど……。

あたしの妄想の中くらい、気持ちよくなって……いいよね？

お兄ちゃんのおちんちんでイカされる妄想だって、してもいいよね？

人差し指で入口をちよつとだけ、くちゆくちゆと出し入れしながら、親指ではクリちゃんを捏ねる。

「んあ……はあつ、はあつ……ああん……お兄、ちゃんつ……一緒に、ユズと一緒にいこ……？」一緒に気持ちよくなる……？」

この前、あたしの足でお兄ちゃんがイッちゃった時の顔を思い出す。

あの時のお兄ちゃん、すつごく可愛かった。イク時の顔つてすつごく、保護欲を掻き立てられるっていうか……守つてあげたくなっちゃつて……。

ずつと好きだったお兄ちゃんのこと、もつと好きになっちゃつて……。
ううん、おかしいよね。

だつて、あたしとお兄ちゃんは、血の繋がった兄妹だもん。兄妹同士で、エッチなことするのは、おかしいことだもん。

だから、あたしはこうやつて、お兄ちゃんを思つて、ひとりえつちをすることしかできないんだから——

「あつ、あ、イク……お兄ちゃん、イク、イッちゃ、イッちゃうよおつ……！一緒に、一緒に、イク、お兄ちゃん、お兄ちゃん！」

お兄ちゃんのおちんちんに荒々しく犯されることを想像しながら、自分の指で自分のエッチな穴を激しく虐める。

お兄ちゃんの映るケータイをギュッと握りしめて、足下に転がる掛け布団を足で挟みこんで。

あたしは目の前に迫っていた光の渦みたいな絶頂の感覚に、何の迷いもなく飛び込んだ。「ふあ、あああッ！イク、イクッ……うううううッ！」

意識がパチパチと瞬く白い光に包まれて、あたしの体を飲み込むように、絶頂の大津波が襲う。

「はあ、はあ……つ、んつ、はあーつ、はあー……」
びく、びくつて、あたしの体が自分の意志とは別に、お魚みたいに跳ねる。

真つ白だった視界が、だんだんと元の色味を取り戻していく。
あ、でも……ダメえ……体に力入らないや……しばらく動けそうにないやあ……。

オナニーを覚えてから何年にもなるけど、今までで一番気持ちのいいオナニーだったのは、朝からずつと我慢していたせいなのかな。

だとすれば、我慢していた甲斐もあったのかな……。
「好き……好きだよ……お兄ちゃん……」

大きく息をついて、呼吸を整えて。
体を駆け巡る絶頂の余韻がゆつくりと鎮まっていく。
でも……なんだろ。

ぶちばら文庫 Creative
ツインクル☆マイシスター
妹バンドはお兄ちゃん限定!

2011年 4月28日 初版第1刷 発行

■著 者 玉城琴也
■イラスト 牧だいきち

発行人：久保田裕
発行元：株式会社パラダイム
〒166-0011
東京都杉並区梅里2-40-19
ワールドビル202
TEL. 03-5306-6921

印刷所：中央精版印刷株式会社

本書の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などをするのは、
かたくお断りいたします。

落丁・乱丁はお取り替えいたします。

定価はカバーに表示してあります。

©KOTOYA TAMAKI ©DAIKICHI MAKI

Printed in Japan 2011

PPO13

ぶちばら文庫
creative

初恋相手が
弟だけど、
お姉ちゃん
はヘンじゃ
ありません！

絶対
お姉ちゃんの
恋を教えてあげる☆
姉主義宣言

日本最強の実姉作家★

音音(コミック)&天姫あめ(ゲーム)による、大合作!

好評発売中

ぶちばら文庫10
天姫あめ 著
音音 画
定価 670円(税込)